

平成 29 年度札幌円山幼稚園学校評価委員会の審議結果報告

委員長 美濃島茂樹（本園理事・卒業生・学識経験者）
委員 結城 理恵（卒業生保護者、地域住民）
委員 新津美智子（卒業生保護者、地域住民）

【目次】

1. 審議の概要
2. 総合評価
3. 平成 29 年度保護者アンケートの回答として寄せられた肯定的な感想と意見
4. 平成 29 年度アンケートにおける教育目標（A.【教育のめざすところ】 B.【発達段階】 C.【教育内容】 D.【教育の特色】）に関する量的評価の結果
5. 平成 29 年度アンケートにおける教育目標（A.【教育のめざすところ】 B.【発達段階】 C.【教育内容】 D.【教育の特色】）に関する量的評価の結果の総括
6. 今年度の重点目標とその評価 その1
【重点目標1】有機栽培による野菜作りと幼児の健康を守る食育の推進について
7. 今年度の重点目標とその評価 その2
【重点目標2】諸行事を、幼児の好奇心を喚起し、多面的な潜在能力を引き出し、感受性と思考力を育てる特色のある、総合的な機会と位置付ける

1. 審議の概要

本委員会は、上記3名の委員により平成30年5月7日から5月21日にかけておこなわれた。審議の内容は、平成30年5月1日に札幌円山幼稚園から出された「平成29年度札幌円山幼稚園の学校評価 -本園の教育目標と平成29年度の重点目標-」（以下『学校評価』と記述する）を中心におこなわれた学校評価であり、その審議結果の報告書、つまり本書が5月28日に竹下満喜恵理事長・園長に提出された。

この報告書『学校評価』は、次の「1」と「2」の二つのアンケートと「3」に基づいて作成されている。

- ・「1」 教職員に向けて、平成30年2月14日に教職員に呈示し、2月16日に集計した「平成29年度の札幌円山幼稚園における教育実践の自己評価」（以下「自己評価」と記述する）
- ・「2」 それをふまえて、保護者に向けて、平成30年2月26日に配布し、3月5日を提出期限とした【A-B-C】の3段階の選択肢からなるアンケート回答と自由記述による感想や意見とを求めた「札幌円山幼稚園の教育についてのアンケートのお願い」（以下『保護者アンケート』と記述する）。
- ・「3」 そして、この二つを比較しながら分析検討し、その結果に対して本園の見解を付して平成30年3月16日に保護者に提出した「本園の教育についてのアンケートへのお礼と見解」（以下『見解』と記述する）。

2. 総合評価

この『学校評価』は、多岐にわたる項目を設定し、「1」と「2」のアンケートを比較分析し検討した結果とそれをもとにして幼稚園側の見解を保護者に提示したものの（「3」）から成り立っていて、本園の幼児教育に対する並々ならぬ熱意と教育実践の真摯な取り組みの様子が拝見できる。

報告にあたって、最初に審議の結論を述べることにする。札幌円山幼稚園では、この『学校評価』をめぐる検討作業を、自らの教育実践を総点検し対象化する重要な営為として位置づけている。また、その作業過程では、教職員による『自己評価アンケート』と『保護者アンケート』とを一元化し相互に関連づけながら考察し、次年度の教育計画を立案するために有効に活用しようとしている点で、ひじょうに本質的で構造化された取り組みと言え、当園の真摯な教育への姿勢は高く評価できる。

換言すれば、札幌円山幼稚園の教育をよりよいものにしようとするその姿勢は、文部科学省が自己評価の在り方として提示している「目標（Plan）-実行（Do）-評価（Check）-改善（Action）」というPDCAサイクルに基づいてしっかり教育実践に関わっていることの証左にほかならない。また、本園では、保護者の意向に丹念に耳を傾け、教育活動や園運営にそれを活かそうとする姿勢が顕著にみられることがすばらしいと思う。

なお、委員会から、文部科学省の「PDCAサイクル」における評価（Check）という用語には「照合」を意味する含意があり、それはモジュール、つまり部品を集合させて実態を把握するというニュアンスをもつ有機性を欠いた考え方が色濃くみられ甚だ疑問を感じるという指摘が出された。評価は、このようにプラグマティックに取り扱うのではなく、実践と真摯に向き合いその全体性を大切にしながら次への方向を追求し続けていくべきであるという点では、本来の評価（Evaluation）を用いるべきであるとの議論がなされた。そして、札幌円山幼稚園の教育評価は、基本的にこの評価（Evaluation）を到達点として、教育理念や目標の設定と計画・実行の段階での教育方法学の適用との研究的総合を図りながらつねにおこなわれている点で卓越したものであるといえる。

最後に、本委員会は、札幌円山幼稚園の、真摯に向き合う5本柱の教育（①自由遊び、②体育遊び、③総合表現活動、④自然体験学習園での活動、⑤英語遊び）に関する情宣の手薄さについて指摘し、更なる発展を期待したいと思う。つまり、平成29年度も札幌円山幼稚園が、園児たちの多面的で全面的で総合的な発達を促すために、教職員が独創的な着想を考え出し、継続して丹念な取り組みをおこなってきたことを高く評価しているが、その成果をより広く社会や教育界に披歴し他園や日本の幼児教育に影響を及ぼし、批判を仰ぎ更なる発展の契機とするような努力を惜しまないよう期待したい。

3. 平成 29 年度保護者アンケートの回答として寄せられた肯定的な感想と意見

はじめに、アンケート回答時に付された当幼稚園の運営と教育に関するたくさんの保護者からの肯定的な感想や温かい意見の中からいくつか引用したいと思う。

- ・三年間お世話になり、本当にありがとうございました。円山幼稚園で大切な幼児期を過ごすことができ、本当に良かったと思います。多彩な教育活動もちろん良かったのですが、何よりも先生方が温かく子どもの気持ちに寄り添って接していただき大変嬉しかったです。私自身も幼稚園に行く度に先生方の笑顔に癒され、明るい声に元気を頂いておりました。また、感染症対策も、今年はマスク着用や行事の変更等色々と配慮してくださりありがとうございました。
- ・創意工夫を凝らし、日々の保育に行事に取り組みられ、どの先生にお会いしても、子どもに真摯に向き合い、皆さんで目的意識をしっかりと共有されていると感じられます。今後も「円山幼稚園の教育」に期待しております。
- ・年中2学期で転入し、当初はなじめるようになるのか心配していましたが、のびのび、そして緩やかな園風、先生方、園児の皆さんのお陰様で今や息子ののびのびと園生活を送らせていただけています。沢山の思い出をいただいて小学生になれることに感謝しております。ありがとうございました。
- ・5本柱の遊びは、どれもすばらしく、幼稚園で色々なことを体験できてよかった。
- ・娘は歌や音楽がとても好きで、お世話になった2年間を通して、様々なリズム、わらべうたあそび、太鼓に触れることができ、とても楽しそうでした。
- ・お誕生会の時、母親たちの子育ての努力と苦勞を讃えてくれた、先生の素敵な詩の朗読には涙が出ましたし、今でもありありと覚えています。本当に円山幼稚園で良かったと思います。どうもありがとうございました。
- ・プレ幼稚園、お誕生会、発表会等、毎日一生懸命準備していただいた事が伝わって感動します。お忙しい中、大変だと思うのでお手伝いとして保護者にも声をかけていただけたら嬉しいです。
- ・子どもたちの歌う姿がいつもののびのびしていて、見ていて気持ちが良いです。
- ・年中さんの和太鼓の発表がとてもすばらしく感動いたしました。子どもたちはもちろんですが、何より先生方のバチさばきがすばらしく、どれほど練習されたのか、子どもたちもその凛とした姿勢を見習い、集中し一体となっている姿に大きな成長を感じました。これからも日々の園活動においても先生方お一人お一人ののびのび生き生き輝き、子どもたちを魅了して頂きたいと思います。
- ・和太鼓の発表会を見て感動しました。1つの太鼓を2人でたたいているのに、ぶつかることなくリズムカルにたたいていて、生き生きと素敵に思えました。体育あそびでは、ドッジボールを見て、ルールを理解して楽しんでいて、年中さんってすごいなあと、成長を感じ嬉しく思いました。・運動会や発表会の仕上がりの高さに驚かされます。短い時間の中で、先生方が頑張ってくれたんだなあといつも感動！
- ・担任の先生だけではなく、全ての先生方がいつでも暖かく接してくださり、廊下ですれ違うだけでもいつも笑顔で挨拶してくださるのはとても良かったと思います。教職員の方々が幼稚園の財産であると感じます。
- ・園での娘の様子が私自身つかみきれずその心配を担任に伝えるとすぐにお電話していただき、私がとらえ違いをしていたことを知ることができました。早い対応をしていただき、私も娘への接し方をすぐに変えられ心配もなくなりました。
- ・英語教育や体育あそびについてはもちろんのこと、毎月おこなわれる誕生会や季節行事等、子どもが楽しみに幼稚園に通えるようなイベントが毎月あり大変嬉しく思います。
- ・毎月の工作、諸行事をとっても楽しんで挑戦し、発表会等の練習を家でも復習して見せてくれます。やる気が嬉しいです。
- ・担任の先生が娘の様子を電話で教えて下さることが何度もあって、その都度相談できたり家でのフォローに繋がって、園での生活に活かすことができ感謝しています。こちらから電話をかけてお聞きするより前に先生の方から気付いたことがあったときにかけてくださったので、とても嬉しく思いました。ありがとうございました。
- ・園での娘の様子が私自身つかみきれずその心配を担任に伝えるとすぐにお電話していただき、私がとらえ違いをしていたことを知ることができました。早い対応をしていただき、私も娘への接し方をすぐに変えられ心配もなくなりました。
- ・先生方、みなさん子どもの名前を覚えてくださり声をかけてくれること、嬉しく思いました。愛情深く関わって下さった事、とても感謝しています。素敵な思い出がたくさんでき、ありがとうございました。
- ・担任の先生だけではなく、全ての先生方がいつでも暖かく接してくださり、廊下ですれ違うだけでもいつも笑顔で挨拶してくださるのはとても良かったと思います。教職員の方々が幼稚園の財産であると感じます。
- ・担任の先生や預かりのひまわりの先生がよくしてくださいました。うちの子は他のお子さんよりマイペースで、同じようにできるまで時間がかかることがあります。みんなそれぞれ、得意不得意がありますが、その子その子に目線を合わせて接して頂いているように思います。
- ・毎月の園だよりの遊びの五本柱を楽しみにしております。今月はこんな事をするんだというのがわかるのが良いです！！ 園に通い帰った時の手洗いうがいの習慣がつかまりました。次々と新しい歌を口ずさんでいて親としてとても嬉しいです。
- ・年中2学期で転入し、当初はなじめるようになるのか心配していましたが、のびのび、そして緩やかな園風、先生方、園児の皆さんのお陰様で今や息子ののびのびと園生活を送らせていただけています。沢山の思い出をいただいて小学生になれることに感謝しております。ありがとうございました。
- ・昨年度の未就園教育「にじいろのとり」からお世話になり、幼稚園の施設に初めて入ったときの印象がとてもアットホームで飾らない(気取っていない)、昔、自分が通っていたような懐かしい雰囲気や安心感を覚えました。担任以外の先生方も息子の名前を覚えてくださり、いつも声かけをしてくれ、それも安心感に繋がっています。
- ・初めての幼稚園生活に親子共々不安でしたが、年少クラスの先生方はお母さん経験もある先生方で手厚くして頂き、安心して預けることができました。ありがとうございました。

4. 平成 29 年度アンケートにおける教育目標(A. B. C. D.) に関する量的評価*の結果

* (【よい・ふつう・改善を望む】を選択肢として求めた%)

教職員と保護者の双方に、教育実践との関わりで、本年度に推進される教育目標の4つの側面の評価を求めた。

- A. 【教育のめざすところ】 本園の遊び教育は、園児がいろいろな活動や行事にわくわくしながら真剣に関わり、心と頭と体を全部使って表現することをねらいとしている。
- B. 【発達段階】 学年に適した教育とそれらの積み上げを重視した。
- C. 【教育内容】 感じる力・考える力・いろいろな能力を確かに育成する水準の高い教育をめざした。
- D. 【教育の特色】 のびのびした子ども時代のための、そして、たくましく立ち立つための、5本柱の遊び(①自由遊び、②体育遊び、③総合表現活動、④自然体験学習園での活動、⑤英語遊び)

今回のアンケートの主たる目的は、保護者が本園の教育指導に関する各項目に3段階評価(【よい・ふつう・改善を望む】を選択肢とした評価)をしてもらい、今後のよりよい教育を推進するための重要なよりどころにしようとしている。

また、保護者へのアンケートの依頼に先だて、教職員にも自己評価、つまり自らの教育を総括するための同様なアンケートの回答を求めている。以下にそのうちA. からD. の結果を掲げておく。

平成 29 年度保護者アンケート評価と教職員自己評価の比較

保護者

回答人数 197 人

	項目	A よい		B ふつう		C 改善を望む		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
A	教育目標	151	76.6%	40	20.3%	2	1.0%	4	2.0%
B	発達段階	156	79.2%	36	18.3%	2	1.0%	3	1.5%
C	教育内容	150	76.1%	41	20.8%	2	1.0%	4	2.0%
D	I 自由あそび	140	71.1%	49	24.9%	5	2.5%	3	1.5%
	II 総合表現活動	157	79.7%	35	17.8%	2	1.0%	3	1.5%
	III おひさまひろば	170	86.3%	19	9.6%	3	1.5%	5	2.5%
	IV 体育あそび	152	77.2%	35	17.8%	4	2.0%	6	3.0%
	V 英語あそび	168	85.3%	21	10.7%	6	3.0%	2	1.0%

教職員

回答人数 19 人

	項目	A よい		B ふつう		C 改善を望む		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
A	教育目標	17	89.5%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%
B	発達段階	16	84.2%	3	15.8%	0	0.0%	0	0.0%
C	教育内容	15	78.9%	2	10.5%	2	10.5%	0	0.0%
D	I 自由あそび	8	42.1%	9	47.4%	1	5.3%	1	5.3%
	II 総合表現活動	15	78.9%	3	15.8%	0	0.0%	1	5.3%
	III おひさまひろば	16	84.2%	2	10.5%	0	0.0%	1	5.3%
	IV 体育あそび	12	63.2%	6	31.6%	0	0.0%	1	5.3%
	V 英語あそび	16	84.2%	2	10.5%	0	0.0%	1	5.3%

5. 平成 29 年度アンケートにおける教育目標(A. B. C. D.) に関する量的評価*の結果の総括

* (【よい・ふつう・改善を望む】を選択肢として求めた%)

前項の「平成 29 年度アンケート量的評価結果」をもとにして、園側はその総括を、肯定的評価と改善すべき評価に分けておこなっている。([3]から引用)

ア) 肯定的評価

① 皆さまからのアンケート結果を拝見しますと、以下のような考え方に基づく平成 29 年度の教育に概ねご支持をいただけたものと受けとめさせていただきました。

本園では、お子さまが入園するときに、保護者の皆さまに、①(園内と園庭での)自由遊び、②体育遊び、③総合表現活動、④自然体験学習園での活動、⑤英語遊びを5本柱として掲げ、それらを総合的に教育することを重要な契約条件としてお認めいただきましたし、機会あるごとに訴えてきました。

このカリキュラムは、長年にわたり本園教職員一同が教育理論と教育実践を積み重ねて到達したバランスのよくとれた、本質的で現代的な、また伝統的で改革的な幼児教育プログラムであると自負しています。そして、私どもはこれらを有機的・総合的に実践することこそが幼児の発達を理想的に実現する本道であると認識し教育をしてきました。また、この5本柱の遊びを通してお子さまの感受性、思考力、諸能力の成長が具体的に保護者の皆さまにはっきり見えるように努めてきました。

回答結果によると、これらのうち、A、B、Cはともに「よい」が80%を少し割りましたので今後

のさらなる研鑽と努力をして充実を図ります。

- ② 本年は「おひさまひろば」の活動86.3%、高い評価をいただきました。私ども教職員の長年にわたる努力によりかなりの水準で花が開き始めたものと受けとめさせていただき、とても喜んでます。

また、特筆すべきは「英語遊び」が85.3%と高い支持が得られましたが、これは皆さまから強いご期待が寄せられているものと受けとめ今後も努力をします。

イ) 改善すべき評価

- ① 相対的に低かったのは、「自由遊び」であり、教職員は42.1%でした（保護者は71.1%）。教職員は、日々の設定保育や朝の会といったルーチン活動には相当の時間をかけて準備し熱のこもった取り組みを展開しています。それに比べて、「自由遊び」では、お子さまに多様な種類や方法の遊びを呈示しているものの、それらのよりよい環境づくり（素材の吟味・意欲喚起の手だて・遊びの質的向上の研究など）と指導の手だて（子どもへの声かけ・励まし方・説得の方法など）が十分とは言えないという反省の気持ちが込められています。今後、切磋琢磨して研究や研修を重ね、子どもが真に楽しいと感じ、より高い質の遊びを求めていくような「自由遊び」になるように努めます。また、今年度から、午後保育の日の保育時間を30分程度長くし皆さまに喜んでいただけたと思いますが、それをどのように有効に活用するかの工夫を今後もしていく必要があると考えています。

6. 今年度の重点目標とその評価 その1

【重点目標1】有機栽培による野菜作りと幼児の健康を守る食育の推進について

平成29年度の重点目標の第一は、自然体験学習園での有機栽培による野菜作りに特化したものである。そして、子どもが野菜の生長過程に関与しながら自然のすばらしさに感動し自然に感謝できるように促し、それを食する収穫祭での体験や園でのクッキングや教職員によるクラスや預り保育の中での提供と接続させ一体化する取り組みをしてきた。このことを通して、子どもの健康を守るという教育と育児の重要な現代的課題を保護者といっしょに考えていきたいと考えている。

以下は、昨年2月に園から保護者に配布した「有機栽培による野菜作りと幼児の健康を守る食育の推進について」というプリントである。

保護者の皆さまへ

平成30年2月6日

愛基学園 札幌円山幼稚園



有機栽培による野菜作りと幼児の健康を守る食育の推進について

竹下英二（副園長）

凍てつく寒い毎日が続き春が待ち遠しいですね。皆さまにはお子さまとご一緒にお元気にお暮らしのこととお喜び申し上げます。

さて、平成28年度は『みんなで給食おいしいなあ、だより』を発行し、お子さまの食育や給食についてごいっしょに考えてきました。ところが、今年度は本園が新制度に対応し施設型給付幼稚園に移行したために、その運営や事務処理が想像以上に複雑多岐にわたり慌ただしい毎日をおくっていますので（私だけでなく、園長、伊藤秀一事務長、麦穂新制度事務担当も）、それを理由にこれまで新聞の発行を怠けてきました。また、1.でご紹介する、くおひさまひろばで8月～11月に収穫した野菜に関する記録は先生方から12月上旬には受け取りましたので、上のような事情があったとはいえ、たいへん遅くなったのは私の怠慢です。まことに申し訳ありません。

そうは申しまして年度末が近づいてきましたので、本園としての食育や給食についての考え方、園での活動の様子や報告すべきことなどをしたため皆さまにご理解をいただくことが必要と考え、いくつかの観点にしぼり拙いプリントを作りました。私の主観的な見解が強すぎるとお叱りをうけるかもしれませんが、ぜひ読んでいただきお子さまのよりよい食育をご一緒に進めていくことができれば幸せです。

1. 自然体験学習園での有機栽培による野菜作りと幼児の健康を促進する食育との接続

—8月～11月におひさまひろばで収穫した野菜の紹介を兼ねて—

札幌円山幼稚園では、5本柱の教育を地道に行いながら、お子さまのいろいろな資質や態度や能力や感受性をしっかり育成したいと考えております。

しかし、このことを考える前提として幼児の子育てにとって大切なことが二つあると自覚しています。一つは、お子さまのケガや事故を回避し、感染症などの病気予防を図る安全な環境づくりに細心の注意をはらいながらお世話をすることです。

また、もう一つは、食育を重視すること、つまり加工食品に含まれる保存料や食品添加物などに留意し、できるだけ無害な状態で自然に作られた食材を使った食物でお子さまの成長を支援することです。そのために「おひさまひろば」では土づくりや生長の過程で化学肥料や農薬をできるだけ使わない環境保全型の野菜作りをおこなっています。そして、その上で、収穫した野菜を使って野外で料理を楽しんだり、先生方が園で料理したものを昼食の愛情弁当や給食メニューに添えたり、担任がクッキングの時間を設定してお子さまといっしょに料理しそれをいただくようにしています。

例えば、今年度に収穫したものを列挙してみますと、じゃがいも、モロッコインゲン、ミニトマト、かぼちゃ、なす、ピーマン、ズッキーニ、大根、枝豆、花豆と、例年以上にずいぶんいろいろな野菜が採れ、逐次お子さまたちに食してもらいました（夏に赤い花を咲かせて収穫した花豆は、これから煮豆にして園児にふるまうつもりです）。

以下に、「収穫祭」があった8月から11月までにかけての園での食生活についてのご報告を、お子さんたちの反応や先生たちの感想など（・から始まる丸ゴシック文字のところ）を加えながら記します。

【A 収穫祭】

1 年長(8/29)

「カレーライス」作り

（食材：じゃがいも、なす、ピーマン、ズッキーニ、その他市販の肉、たまねぎ、にんじんなど）

・自分で皮をむいたじゃがいもや、自分で切ったズッキーニなどが入ったカレーは、どの子も笑顔で食べてくれました。おうちの人とおひさまひろばで食べるのも格別でした。

・大好評！ カレーだとたまねぎ、にんじん、ズッキーニ、ピーマンなど、苦手な野菜も食べられたそうです。

2 年中(8/24)

「じゃがいもの塩ゆで」

・「じゃがいも」は好きな野菜、という子が多く、塩味だけでも素材の味を感じながら食べることができました。

「モロッコインゲンの塩ゆで」

・苦手な子もいましたが、みんなで食べることによって一口だけは食べる事ができた子もいました。

「ズッキーニ焼き」

・とっても人気で完食できていました。保育室でホットプレートで焼いたために出来たてを食べられたのがうれしかったようです。

3 年少(8/30)

「じゃがいもの塩ゆで」

「モロッコインゲンの塩ゆで」

・自分で掘ったじゃがいもを食べられることに大喜びでした。

【B 設定保育でのクッキング】

1 年長(10/03)

「いももち」(食材：じゃがいも)

・じゃがいもをつぶして片栗粉とまぜて形を作り、食べるころまで全部を1人でやり、とても達成感が味わえる活動になったと思います。2個目を焼いているときに、「まだかな～」とできあがりを楽しみにしていました。砂糖・醤油も人気でした。給食に“いももち”がデザートとして入っていたときは、「幼稚園で作ったいももちのほうがおいしい」と言っている子がいて、担任はうれしくなりました。

・つぶしやすくスムーズにできました。ハートの形や人の顔にくり抜いたり、2つ重ねで「ホットケーキ！」を連想させたり、思い思いに形をつくっていました。焼けてから「いいにおい！」「僕のはまだかな」と楽しみにしていました。

2 年中(09/10) 日曜参観日のクッキング

「ポテトピザ」(食材：じゃがいも、トマト)

・トマトをつぶしたり、モロッコインゲンを切ったりと子どもたち自身が様々な調理過程を経験できました。

・ズッキーニ、枝豆、トマトが人気でした。日曜参観では、トマトをつぶしたり、モロッコインゲンを包丁で切ったりしたことが、楽しかったそうです。

3 年少(10/11)

「いももち」(食材：じゃがいも)

・“じゃがいも”をつぶすときに、「あー、なんかいいにおいするね～」と男の子が美味しい匂いに気づき、鍋の中を見ると「おいもだ～」と喜んでいました。手でつぶす作業もムニムニの感触を十分に味わっていました。美味しく食べたようであったという間に食べ終わりました。

・いももちを作ることを前日から伝えていたため、当日はとても楽しみに来てくれました。いももちの形を作ると、焼いて食べたくて「まだ!?!」「早く食べたい!」と言っていました。昼食のときに出来あがったものを食べて「おいしい♡」「もう1個食べたい!!!」と喜んでいました。全員食べることができました。



【C 折に触れて川田先生が適宜採って持ってきてくれたものをふるまったもの】

全学年

「ミニトマト」(随時、赤くなったのでどんどん食べました!)

・見てすぐに。「アイコのトマトだね!」という言葉が子どもたちの口から出ていました。「甘くておいしい」と喜んで食べていました。

・収穫したミニトマトは大人気で、ポウルいっぱいに入ったミニトマトは子どもたちがたくさん食べて残りがほとんどありませんでした。窓に置いてあった青いトマトがどうにか赤くなったので、それを食べた子どもたちが「ちょっとすっぱいけど美味しいよ」と言いながらたくさん食べていました。

・苦手な子は、進んで食べられませんでした。トマトが好きなのは大喜びで何個も何個も食べていました。

・“自分でとったもの”という実感があったためか、苦手な子どもも積極的に食べていました。

【D 折に触れて先生たちが作ってふるまったもの】

「枝豆の塩ゆで」(10/06)と(09/12)と(09/22)など

1 年長

- ・自分たちで枝からむりました。
- ・子どもたちは枝豆が大好きで、昼食を食べ終わっても全部なくなるまで食べ続けていました。
- ・ポウルいっぱい枝豆を全部食べていました。
- ・枝からむった時、虫がでてきたり、変色しているのもありましたが、「赤ちゃん豆がある!」「4つもはいつているよ」と友だち同士で共有しながら楽しくできました。「おいしい」と何度も言いながら食べていました。

2 年中

- ・何個も食べる子どももいて、大人気でした。
- ・塩ゆでが人気で夢中になって食べていました。
- ・ポウル2つ分の枝豆が、とても人気で、「もうないの?」「まだ食べたい!」と言ってすぐに空になりました。

3 年少

- ・野菜の中でも枝豆は皆好きなようで、たくさん食べていました。
- ・保育室で枝から枝豆をむしりとる子どもたちの様子は無言で、一生懸命にむしっていました。そしてゆでた枝豆をたくさんたくさん食べて喜んでいました。
- ・実がたくさんついた枝を顔にのせてポーズをとったり、夢中で豆をとっていました。ズッキーニが嫌いな子も枝豆は大好きと言って食べていました。給食で出た枝豆は殻から豆を出すことができなかった子も、“おひさまひろば”の枝豆を食べているうちに上手に殻から出せるようになりました。「おいしい! おいしい!! おかわりー!」とたくさん食べていました。
- ・好きな子は大好きで、お皿にある枝豆をつつきあって食べていました。あっという間に、お皿がからっぽになって喜んでいました。

「モロッコインゲンのマヨネーズ和え、かつお節和え」(9月または10月のある日)

全学年

クラス毎に先生が作って昼食時に食べてもらいました。

「ズッキーニの塩こしょう、バター焼き」(08/04七夕まつり)と(08/29)と(09/19)など

1 年長

- ・保育室で焼き始めると、においに誘われて周りに集まっていました。「美味しいね!」「何個食べていいの?」と言ったり、何回も食べる機会があったので、「先生焼くの上手だね」と褒められました。大きさにも毎回驚いて、「おうちで食べるのはもっと小さいよ」と話してくれました。
- ・「甘くておいしい!」「中のタネ、やわらかいね!」、と焼きたてを提供できるのがよかったです。かつお節和えも好評でした!
- ・まだ焼きあがっていないのに、列になって並んでいて「早く食べたい!」と楽しみにしていた。何度もおかわりをする子がいました。おうちの人から「おいしかった、と言って帰って来たんですよ」と教えてもらいました。「幼稚園で食べたものと一緒だよ!」とお弁当の中のズッキーニを指さし、野菜への興味が湧いてきたのかなと思いました。

2 年中

- ・子どもたちに人気で、ホットプレートを出すと「ズッキーニ!?!」と嬉しそうにしていました。苦手(食べず嫌い)の子でもみんな食べていることによって、興味を持ち食べていた。「おかわりないの?」と大人気でした。
- ・ズッキーニのバター焼き、塩こしょう焼きを保育室で3・4回食べました。朝、ホットプレートがあると「今日ズッキーニ!?!」と喜んでいました。
- ・保育室で焼いていると「早く食べたい!」「いいにおい!」などと言い、焼いている様子も近くでみていた。「バターの味がしておいしい!」「ほくはしょう油の味がおいしかった!」などと感想を言っていました。

3 年少

- ・家では野菜を食べない子どももホットプレートのところにきて「おかわり! おかわりー!」と何度も食べていました。幼稚園で食べるとおいしいようです。
- ・保育者と一緒に包丁で切ってみました。ねこの手に気をつけて、慎重に取り組んでいました。模様を「恐竜みたい!!」と喜んで観察していました。焼いていると「いいにおい!!」と食べるのを楽しみにしていました。「おかわり!」と4つも5つも食べていました。

【かぼちゃのポタージュ】(09/26)

年長

- ・大きな鍋にたっぷり入ったポタージュをみて、「わあ! すごい! おいしそう!」と大興奮でした。コーンスープを飲むことは普段からあっても、かぼちゃのスープはあまりなかったようで、「初めて飲んだ!」と言う子がほとんどでした。口の周りを黄色くしながら大満足していました。担任はかぼちゃを切ること・つぶすことがとても大変でした。
- ・作るのが大変でした。お金・時間もかかるけれど、「おいしい!」の言葉がたくさんでてきました。
- ・「かぼちゃはあまり好きじゃないけど、これは食べられた!」と嬉しそうに話していました。何度もおかわりしていました。

【味噌汁】(食材:だいこん)(10/18)

1 年長

- ・お味噌汁は大好きなようで、「おうちでも食べるよ〜」とゴクゴク飲んでいましたが、だいこんがたくさん入っていたため「だいこんからい!」という子も数人いました。
- ・「ちょっとだいこんがにがい…」「葉っぱも食べられるんだね!」と言って、これは少し不評でした。次回は違う食べ方の方がいいのでは-----。
- ・「あたたかい〜」と心も体もあたたまっていました。葉があったためか、食べる子があまりいなかったです。

2 年少

・だいこんをたくさん入れたので甘味がでておいしかったですが、子どもには苦味も感じられたようで、食べない子もいました。「あったかくておいしい!!」と喜んでいました。温かったので、心がほっとして、みんなで食べるのがとても楽しく感じました。

「かぼちゃの煮物」(11/16)

全学年

園長先生が、二百数十名分の、ほこほこした甘ーいかぼちゃの煮物を汗だくになって作ってくれました。子どもたちが「おいしい!」、と喜んでくれたのでやりがいがあったと言っていました。

「ふろふきだいこん」(食材：だいこん)(10/12)

1 年中

- ・「甘い!」と野菜の甘みを感じて食べる子どもがいました。
- ・年中で20本の大根を切ってゆでたため、準備やゆで加減が大変だったが、子どもたちは喜んで食べていた。

【延長保育で食したもの】

食欲の秋になって、櫻庭先生、斎藤先生、高山先生、青木先生たちが、店から買ったおやつだけでなく、自分たちでいろいろなクッキングをして子どもにふるまい、家庭的な楽しい団らんの雰囲気が醸し出されました。

・「じゃがいもの塩ゆで」をおやつに3、4回ふるまいました。小麦粉や豆はアレルギーの心配があるので避け、じゃがいもの方がいいのではないかと考えたからです。

・おいしい「いもだんご」は先生たちが下ごしらえをして、園児が焼いて何回も食べました。

・バターは使わず、塩を使ったりマヨネーズを使ったりして、焼き加減抜群の「ズッキーニの塩焼き」を出しましたが、いつも子どもたちの手が進んで出て積極的に食べました。

・「かぼちゃのホットケーキ」

ホットケーキは高山先生の十八番料理で、いつもプロ級に仕上げます。ホットケーキの元にかぼちゃを混ぜて焼きましたが、子どもはひっくり返す役目を引き受けとても喜んで食べました。

・「トマトソースとチーズをのせた食パン」

パンの上にチーズをのせ、斎藤恵子先生が自宅で作ったオリジナルのミートソースを塗って、それを焼いてふるまいました。子どもたちはそれをなんと喜んで食べたことでしょうか!

・おひさま広場でホットプレートを使ってモロッコインゲンなどの野菜を焼いて食べたことも懐かしく偲べれます。

【プレスクールで食したもの】

〈たんぼぼくらぶ〉では、夏休みに下の3種類の献立を作り子どもたちにふるまいました。

①「トマト」

半分に切ったトマトを配ると喜んで食べ、お代わりをする子がたくさんいました。

②「モロッコインゲンのかつお節和え」

モロッコインゲンを細かく切っかつお節と醤油をまぶしてふるまうとみんな喜んで食べ、嫌いな子も食べたようです。

③「ズッキーニの塩こしょう焼き」

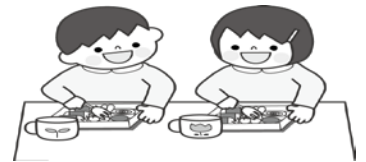
子どもたちは焼いたズッキーニが大好きなようです。

〈虹色の鳥〉では、

①「焼きズッキーニ」ズッキーニを焼いて、トッピングとして子どもの名前を書いた旗を立ててふるまいましたが、それはそれは大人気で、とても喜びました。

②「いももち」「かぼちゃもち」

また、いももちとかぼちゃもちも作りましたが、その際に子どもたちはいももちを丸める役目を引き受けとても喜んで食べました。



2. 幼児の、にごりのない健やかな身体の成長を保証する食育をめざして

1) 食育にあたっての食品添加物と保存料についての考え方

幼児期の子育てにおいてもっとも大切なことは、わが子の体を健康なものにしっかり形成することではないでしょうか。そのために後代を担う子どもたちは、急激な環境の変化や著しい精神的ショックを体験したり、慢性的に不都合な状況にさらされたりすると、不安、抑うつ、無気力、引きこもりなどといった精神的な症状が出てくるので気をつけなければなりません。私たちは、そうならないためにつねにわが子の言動を観察し不適応の兆しがなにかを察知したいものです。

また、食生活の面でも、加工食品の中には添加物や保存料などが原因と言われている発がん性などの難病や催奇形性(生まれてくる胎児への影響)の病気などに結びついていかにしたいものです。

次頁の表は、厚生労働省「第8版食品添加物公定書」などをもとにして作成しました。危険度の、2は危険度が低い添加物と判断されていますが、まだ科学的にも追跡調査の面でも安全性が確認されていないもの、3はできたら避けたほうがよいもの、4はできるだけ避けたほうがよいものです。1は問題がないと考えられるものなので割愛しました。

これは国の安全基準ですが、それに合致している食材であれば絶対に大丈夫だと安心するのではなく、お子さまのためにあまり頻度を多くせず控えめに使用するといった配慮も大切だと思います。また、

食品添加物や保存料を使わなくても、できるだけ自然なもの、害の少ないものがあればそれらを使った食材を用いるという姿勢で育児にあたりたいですね。

給食でもご家庭の料理でも、例えばソーセージはお子さまが喜ぶ楽しい食材なので、亜硝酸ナトリウム（４）など（次頁の表を参照のこと）が含まれていることが多いにもかかわらず選択することが少なくないですね。このような場合には、使用するかどうかは人それぞれの判断に任されます。しかし、私は強く思います、微量であるなら健康上ほとんど問題がないのかもしれませんが、全体としては、あるいは基本的には、大人になって自立するときに引き渡す愛すべき私たちの子どもの身体はにがりのない健康なものであるように、日々心がける姿勢は崩したくないものだ。

加工食品の食品添加物は体内に残存し後代に引き継がれていくとしたら、可愛いわが子たちの体、そして次々世代が引き継いだ体に異常が出てしまうとしたらなんと悲しいことでしょうか。ですから、皆さまにはご周知のように、食品を買われるときにはかならず「食品表示」*をご覧になると思います。その時にこのくらいならまあいいだろう、と安易に許容するのではなく、わずかな危険性も長い時間をかけると顕在化してくるかもしれないとお考えになることも大切です。そうすることこそが子どもたちへ親や教師が与える最高の愛情であり、そのような心づかいこそがお子さまの健康な未来を保障するのだという信念をおもちになっていただきたいです。むろん私も教職員も同様な方向で考えて参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

* <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201505/1.html#anc01>

最後に、平成27年度の本園の給食のことを例にして安心安全な食材について考えてみましょう。ある給食の献立の一つにハンバーグがありました。それにはドロマイト（苦灰石）という添加物が含まれていました。この中には鉛、水銀、ヒ素などといった有害な貴金属が混入していることがありうる（微量であれば安全性に問題はないと主張する人もいますが）、本園からドロマイトの入ったハンバーグは使用しないしてほしいと会社に申し入れました。会社側は少し時間をかけて検討された結果、直ちには変更できないとしてもできるだけ早急に変更に踏み切るとの回答がありました。この会社は一昨年までに引き続き、今年度から再びお願いすることにした会社ユニオン給食です。その時の誠意ある対応を評価した上で再契約したことは論をまちません。このように子どもの食の安全は保護者の皆さまと教職員と給食業者が相互理解のもとに連携して推進していくことが重要だと私どもは考えています。

食品添加物とその危険性

種類	名称	危険度
甘味料	アスパルテーム	2
着色料	タール色素	4
	コチニール	2
保存料	ソルビン酸、安息香酸ナトリウム	4
増粘剤	カラギーナン	2
酸化防止剤	エリソルビン酸ナトリウム	4
発色剤	亜硝酸ナトリウム、硝酸ナトリウム	4
漂白剤	亜硫酸ナトリウム、次亜硫酸ナトリウム	4
防び剤	オルトフェニルフェノール、次フェノール	4
イーストフード	臭素酸カリウム	4
	リン酸3カリウム、炭酸アンモニウム	3
調味料	5' グアニル酸2ナトリウム	4
	L グルタミン酸ナトリウム、5' イノシン酸2ナトリウム	3
かんすい	ポリリン酸ナトリウム	4

（厚生労働省「第8版食品添加物公定書」などをもとに作成）

2) 食育にあたっての食器用洗剤について

安全な食育をめざしていく上で考えなくてはならないもう一つのことには食器用洗剤の問題があります。私がかつて研究のための海外出張のときに訪ねたある家の台所での食器洗いの様子を見て大変衝撃を受けたことがありますのでお話しします。

台所の流しには、かなりたくさんの泡だった洗剤が入ったボールの中にたくさんの皿や茶わんが浸されておりました。ご主人たちは、その後、食器から洗剤をすっかり洗い流すのではなく、さっとひと洗いするだけで網かごに移しました。食器は見かけ上はきれいですが洗剤がまだ厚ぼったくかぶさって

泡がいっぱいだったのです。私は日常的にこの状態のものにまた次回にも食べ物を入れて使っていましたので唖然としたものでした。

なぜならば、食器用洗剤の合成界面活性剤（特に以下のもの）*には、胎児の先天異常（催奇形性作用）を引き起こす懸念がありますし、微生物によって分解されないため河川・湖沼の環境汚染により魚が生きていけない状態が起こります。もし私たちがそういう洗剤のついた食物を食べるとしたら大人だけへの影響だけでなく子どもの将来を大変危惧しなければならないかもしれません。

*合成界面活性剤：アルキルエーテル硫酸エステルナトリウム（AES）、ポリオキシエチレンアルキルエーテル（POER）、アルキルスルホン酸（SAS）

ですから、どうしても洗剤を使う場合には、合成界面活性剤を使っていない大豆レスチンなどを使うべきです。しかしそうする前に、できるだけ重曹を使ったり、石鹼を使ったり、湯や水だけで汚れが落ちるスポンジを使うように心がけるように考えたいです。

加えて大切なことは、洗うために使うスポンジは雑菌の温床ですので、泡の洗剤を残さず水気をしっかり切って保管したいものです。私は、本園の先生たちにこの洗剤の泡の危険についてたびたび凝りもせず言って嫌われている次第です。ご家庭でも未来のお子さまたちのためにこの機会に食器用洗剤とスポンジの扱いについて再点検していただければうれしいです。

3. 自然体験学習園の畑地の土壌改良について

保護者の皆さまにはじゃがいもの植付けの時にも土寄せの時にもお感じになったと思いますが、私も上の畑は畝（くわ）が入らないほど固い粘土質なので土壌改良してよい畑にしたいと考えてきました。そして、昨年10月に、52万円ほどかかりましたが、7トントラックで10数台の、追分産の良質の黒土を搬入し、現状の畑の上に高さ30cmの盛り土をしました。

春になったら川田先生が中心になって男性職員で、粘土質と黒土を混ぜ、堆肥や有機石灰や有機配合肥料や鶏糞（けいふん）などを加えて良質の土壌にするべく土壌改良一年目の努力をするつもりです。保護者の皆さまには、平成30年度のじゃがいもの植付けのときにはいままでのようなご苦勞をおかけしなくてもよいようにしたいと思います。

上記のプリントを拝見すると、秋には、園児たちが春から野菜作りに関わり、また教職員が園児たちのために別に植えた、じゃがいも、モロコシインゲン、ミニトマト、かぼちゃ、なす、ピーマン、ズッキーニ、大根、枝豆、花豆などの有機野菜が、次から次へと子どもたちの口に運ばれていることがわかり、札幌円山幼稚園における幼児期の成長に必要な自然と食生活の一環的教育が真剣におこなわれていることがわかり、説得的なすばらしい実践であるといえる。

また、2月6日に保護者に配布された「有機栽培による野菜作りと幼児の健康を守る食育の推進について」のプリントを共通理解の拠り所としながら、平成30年3月16日に保護者に提出した「本園の教育についてのアンケートへのお礼と見解」（『見解』と記述する）の中で以下のような意見交換がなされている。以下の①から④の課題意識の中には保護者と教職員とが一緒になって教育と育児の重要な問題を受けとめていこうとする姿勢がみられ高く評価できる。

① 【野菜づくりと食育：食品添加物と食器用洗剤】

・「給食について、子どものために保存料の事等、真剣に考えて頂いてるんだなと思い、ありがたく思いました。食器用洗剤のプリントを拝見しましたが、家庭でも毎日洗剤を使用しておりますので、これを使ったら良いという具体例を出して頂けるともっと理解につながったと思います。」

→お手紙のプリントで「---どうしても洗剤を使う場合には、合成界面活性剤を使っていない大豆レスチン等を使うべきです。しかしそうする前に、できるだけ重曹を使ったり、石鹼を使ったり、湯や水だけで汚れが落ちるスポンジを使うように心がけるように考えたいです。」と書きました。このオーガニック洗剤である、大豆レスチンは、泡がほとんど出ませんが、水にも油にもなじむ性格がありますので水や油、そして農薬や雑菌さえも、洗い流すことができるのです。特定の商品名はこの場ではお知らせできませんので、インターネットやお店でお確かめください。また、これは私見なのですが、日常の食器洗浄の場合には汚れの少なればまず水で、そして汚れが少し多ければぬるま湯で、もう少し多ければ石鹼で、かなり多ければ重曹と替えて用いるのがよいのではないかと考え実行しています。でも人体への影響を危惧して界面活性剤を避けるべきであるという理屈から言うと、大豆レスチンに切り替えたほうがよいのではないかと目下思案中です。

② 【給食：メニュー、食材の安全性、食品管理、食育の啓もう】

・「給食について、井や麺類の日に副菜がなく、2品なのが気になります。コストの関係もあるのですがデザートが缶詰の果物ではなく季節のくだものをそのまま味わうようになるとうれしいと思います。缶詰の果物の産地が気になります。我が家では多少高額でも産地にこだわりの国産のものを選ぶようにしています。」

→副菜を与えたいというご指摘はよくわかりますが、給食会社は栄養士の先生が1ヶ月をトータルとして食材を選択し栄養やカロリーに配慮して日々の献立を決めていますので、ご理解いただきますようお願いいたします。また、生の果物を与えたいというご意見はその通りですが、細菌や夏場の腐食を回避するために缶詰を用いているとのこと。中身のほとんどは国産中心ですが、やむをえず外国のものを選択するときは慎重に選択し、その場合は汚染が心配な中国産のものは除外しているとのこと。

・「食に関しては園の方針に共感しています。一案ですが、せっかく給食会社を委託しているので食のスペシャリストに食育として子供たちにお話やレクチャーがあっても良いかもしれませんね。」

→良いお考えなので今後の課題として検討します。また、試食会等適切な機会を設け、栄養士の先生から保護者の皆さまにもお話をいただくつもりです。

③ 【おひさまひろばの病虫害対策】

・「土壌改良については、大変なご苦労がおりかと思いますが、感謝の限りです。作物の病気や害虫への対策もどに行っているのか、もし機会がありましたら教えて頂ければ幸いです。（狭いながらも家庭菜園をやっているの、興味がある次第です。）」

→盤溪でも、細やかに注意をしないと、野菜の葉に、特に裏側にたくさん害虫がついて枯れてしまう恐れがあります。できるだけ手で取りますが、やむを得ず、害の少ない薬剤を少量スプレーでつけて駆除します。虫は駆除してもたびたび出てきますが、その都度薬剤を使うのはよくないのでふつうは1回、多くても2回までにしています。

野菜は元気がなくなることもありますが、それは日当たりがよくない場合と根がしっかりしていないため水を吸い上げることができない場合が多いです。また、状況に応じて堆肥や有機配合肥料や鶏糞（けいふん）や有機石灰等を加えたり、追肥を忘れないという点にも気配りをしています。このように、日々、川田先生を中心に教職員で、土の様子、お天気の様子、野菜の様子を細やかに観察し問題に対処してうれしい収穫時を迎えることができるように努めています。

④ 【おひさまひろばの活動の充実と負担の大きさ】

・「おひさまひろばというすばらしい場所があるので、もう少し自然体験の活動があってほしいと思いました。」
→今年度は虫とりやすすき取り等をして遊び楽しみましたが、来年度は日程的に5本柱の調和のとれた教育、行事、給食等との兼ね合いも考え、できる限りお子さまたちをお連れできないかを検討しさらに充実できるように努めます。

・「くおひさまひろば」に行く回数を増やしてほしいです。せっかくなのでもっと畑作業をしたいです。」
・「おひさまひろばの親の参加は、収穫祭のみでいいのでは、と思いました。何回も行くのは負担でした。」
→自然体験学習園の活動は86.3%と量的評価で圧倒的に高い割合を示しています。また、本来的に、農作業と食育の連続性を考慮し、自然の素晴らしさと食の大切さをお子さまとともに実感する大切な機会と位置付けていますので、できるだけ多くの皆さまとご一緒に畑作の苦勞と喜びを共有していただきたいと思います。

しかし、その反面、皆さまのご事情に合わせて自発性やボランティア精神を発揮されて関わるといった考え方も一理あります。毎年、アンケートを拝見すると畑作に関する理念の重要性と負担の大きさについて、上記のように対立するご意見をいただきますので園としては難しいかじ取りを迫られていますが、皆さまのご協力で今後もいろいろ工夫をしながらより活性化するように努めます。

7. 今年度の重点目標とその評価 その2

【重点目標2】諸行事を、幼児の好奇心を喚起し、多面的な潜在能力を引き出し、感受性と思考力を育てる特色のある、総合的な機会と位置付ける

1. お誕生会

お誕生会では、誕生児が園児たちに祝ってもらおうと同時に、親子ともどもで成長の喜びを実感し合う機会と位置付けている。歌を歌ったりお祝いの言葉をかけあったりするさまをごらんいただく機会であり、親や仲間の前で言語によってしっかり自分のことを表現できるコミュニケーション能力の育ちを実感する節目の機会でもある。

2. おひさまひろばの活動と収穫祭

保護者の協力や支援のもと、おひさまひろばでの種まきや種イモの植えつけから始まる一連の活動はお子さまにとって大きな喜びと成長をもたらすものと考えている。また、自然体験学習園での活動の総決算である収穫祭では、作物を採り、じゃがいもを食し、歌や踊りを楽しみ、子どもたちの全面的な成長の機会としている。

3. 運動会

運動会では、元気いっぱいの子、全力で走り応援する子の姿を見ることが出来る。お遊戯の水準を超えて、子どもなりに美しさやエネルギーのほとばしりをしっかり表現できるダンスを披露する。このような経験を土台にして、子どもたちは、小学校のダンス授業でも意欲的に表現してくれるものと思う。

4. 教育発表会

教育発表会では、子どもたちの感情を豊かに耕すための日常の教育活動の成果を披れきし、保護者の評価を得る。

5. 総合表現活動発表会

総合表現発表会では、子どもたちの感情を豊かに耕すための日常の教育活動の成果を披れきし、保護者の評価を得る。けんけん大会では、子どもたちの感情を豊かに耕すための日常の教育活動の成果を披れきし、保護者の評価を得る。

6. 親子遠足

親子遠足では、親子が、終日、戸外で楽しい時間をともにし親睦を深める。

7. 個人懇談日

個人懇談における担任教師との話し合いを、子どもの成長にとって有益な機会とする。

8. 参観日

参観日では、子どもが成長する様子を多面的に見てもらい、評価をうる。

平成 29 年度保護者アンケート評価と教職員自己評価の比較

保 護 者

回答人数

197 人

	項目	A よい		B ふつう		C 改善を望む		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
E	1 お誕生会	159	80.7%	22	11.2%	2	1.0%	14	7.1%
	2 収穫祭	160	81.2%	24	12.2%	3	1.5%	10	5.1%
	3 運動会	129	65.5%	43	21.8%	11	5.6%	14	7.1%
	4 教育発表会	164	83.2%	25	12.7%	3	1.5%	5	2.5%
	5 総合表現活動 けんぱ集会	152	77.2%	33	16.8%	3	1.5%	9	4.6%
	6 親子遠足	131	66.5%	41	20.8%	6	3.0%	19	9.6%
	7 個人懇談	147	74.6%	37	18.8%	4	2.0%	9	4.6%
	8 参観日	153	77.7%	37	18.8%	3	1.5%	4	2.0%

教 職 員

回答人数

19 人

	項目	A よい		B ふつう		C 改善を望む		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
E	1 お誕生会	15	78.9%	3	15.8%	1	5.3%	1	5.3%
	2 収穫祭	18	94.7%	1	5.3%	1	5.3%	0	0.0%
	3 運動会	18	94.7%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
	4 教育発表会	14	73.7%	5	26.3%	0	0.0%	0	0.0%
	5 総合表現活動 けんぱ集会	12	63.2%	6	31.6%	0	0.0%	1	5.3%
	6 親子遠足	10	52.6%	6	31.6%	0	0.0%	3	15.8%
	7 個人懇談	6	31.6%	8	42.1%	0	0.0%	5	26.3%
	8 参観日	11	57.9%	6	31.6%	1	5.3%	1	5.3%

以上の8つの行事の中で、保護者がAと評価をしたのは、「お誕生会」80.7%「収穫祭」81.2%、「教育発表会」83.2%である。これは、教職員の長年にわたる努力によりかなりの水準で花が開き始めたものと判断できる。

それに対して、「個人懇談」では、保護者のAが74.6%であるのに対して、教職員のAは31.6%と著しく低い結果が示されました。これは、園児の様子や言動を保護者の方へ適切に伝えることができたか心配であるという気持ちと更なる努力の必要性が反映されているものと思われる。

また、この審議に先立って、園長から、追加報告として、教職員の「運動会」のAが94.7%だったのに対して、保護者は65.5%であり、両者間に大きな相違がみられたので、教職員としては、今年度の運動会を間近にひかえて子どもの多面的な能力や態度の発達を促しながら喜びをもって自己実現ができるような、発達段階を踏まえた特色ある取り組みであることを示していかなければならないと考えているというお話があった。

札幌円山幼稚園では遊びの5本柱(①自由遊び、②体育遊び、③総合表現活動、④自然体験学習園での遊び、⑤英語遊び)を標榜し幼児教育に取り組んでいる。そして、自由遊びを5本柱の基本に据えながら、更に多彩な設定保育による遊びを呈示し、それらを総合化する営みとして諸行事を位置付けている。委員会は、それらを子どもの成長にとって欠いてはならない要素として位置づけ、全体的、全面的、総合的に教育するための構造的なカリキュラムを組織しそれと真剣に向き合って教育に当たっていることに満腔の敬意を表したい。